



あい 愛
あい 逢

第
21
号

特定非営利活動法人 愛逢

尼崎市小中島1-20-21

電話 06-6493-1424

FAX 06-6493-1443

発行責任者 坂本敬子

発行日 2008年6月5日

救急救命講習会を開催いたしました！

AED 使用法を習得

去る4月9日、私たちヘルパー部門のメンバーは、消防署の協力により、小中島会館にて救急救命の講習を受けました。ホームヘルパーは利用者さんの日常生活の一部を共に過ごします。

とっさの出来事(体調の急変など)への対応は大変難しいと日々痛感して



おります。そのため、基本的な応急処置の知識・気道確保・心肺蘇生法・AED(自動

体外式除細動器)の使用法をマスターしておくことは必須です。



参加ヘルパー14名、個々に指導していただきました。今回の講習を今後の教訓に、日々冷静を保ちながら業務に励みたいと思います。

サービス提供責任者(管理者)

中田佳代子

参加者の感想

救急救命の講習に参加し色々な事を勉強しました。今回は心肺蘇生(心臓マッサージ)の手順やAEDの装着の仕方等を勉強させてもらいました。人形にふれ消防士さんから丁寧に教えていただきました。

消防士さんの見本では、簡単そうに見えたのですが、実際自分が体験してみると、思っ

た以上に力が入り難いと思いました。後、周囲の方達の協力も必要なんだという事もわかりました。知識や技術をしっかり身につけ、いざという時に今回学んだことを思い出して人命救助に役立てる事が出来ればと思いました。

ヘルパー 成尾幸恵

会員登録更新と入会のお願い

会員の皆さま、会員登録の更新は、もうお済みでしょうか？昨年同様、引き続きましてお力添えの程よろしくお願い申し上げます。

また新たに私達と一緒に活動していただける方は、正会員として、活動に賛同し、支援していただける方は、賛助会員としてお申込み下さい。

正会員：年会費 3,000円 入会費：2,000円(正会員のみ)

賛助会員：年会費 2,000円

※お問い合わせ 電話 06-6493-1424

第5回総会開かれる

第5回総会が、5月17日午後6時から会員35名（委任状17名）の出席のもと、小中島福祉会館で開かれた。議事は楠元きみゑ議長のもと、第1号議案から8号議案まで真剣に審議され、すべて参加者全員の賛成で承認された。

2部の懇親会では、「愛逢くらぶ」時代からの思い出あり、「看とりの家」への熱い期待ありで、和気あいあいのうちに総会の全日程を終えた。



今年は「看とりの家」（仮称）を実現しよう

その時をどこで

1976年を境に増え続けた「病院死」ですが、高齢社会を迎えるに当たり、厚労省は医療費がかからない「在宅死」を奨励し、保険点数の切り下げが続く中、在宅を支援する医療機関には手厚い処遇を打ち出しました。

愛逢は、結果として厚労省と方針を同じくすることになりますが、その目的は月とすっぽんです。

「生かし続けること」が勝ちの医療とされ、「死」は医療にとっては負けとされた時代が続きました。息をし続ける為にはあらゆる手段が講じられ、死ぬに死ねないマカロニ症候群（注）で多くの人が苦しんだ末に家族が排除される中で死んでいきました。

一方「死」は不浄なもの、口にすべきではないものとする日本の文化があり、自分の死、愛する人の死を正面から捕らえることなく命を「お任せします」と医療に預けてきました。

愛逢では昨年「ターミナルケアと終末期の生き方を考える」というテーマで連続講演会を開催し、不浄と言われていた死を真剣に考え始めている多くの市民がおられることを確認できました。

息させられる医療にノーと意思表示し、「自然のままです」と望まれる方がなんと多いことか！講演終了時にお願いしたアンケートで私たちはそれを実感いたしました。また、自分

の家で最期を迎えたいけれども、困難だという意見も聞かれました。困難な理由は沢山あります。

病院では治療をしないで入院を続けることは許されません。しかし、退院には不安がふれています。老々介護・一人暮らし・フルタイムで働く家族・身近な人の死を体験した人が誰もいない・管をつけたままの退院でその管理・何かあった時どうしよう等々でなかなか自宅に戻れません。

夢から現実へ

そんな時、住みなれた自分の家ではないけれど、自分の家のように家族が居たければ一緒にいられ、呼べば誰かが来てくれるそんなもう一つの家がほしいと思ってきました。

初めは夢でした。しかし、昨年「看取りの家建設に向けてのプロジェクト」をつくり、講演会を成功させ、実際やっているいくつかの施設を見学して、「私たちにもできる！」という確信を持つに至りました。

今秋は、「その時をどこで」というテーマで講演とシンポジウム・ターミナルケアボランティア養成講座を企画しております。そして今、実際に立ち上げる為の建物（家）探しに入っています。情報があればお寄せ下さい。

ケアマネージャー 兼行栄子

（注）救命維持装置につながれて、マカロニのように管をいっぱいつけられている状態をいう。

平和と共生フォーラム

5月22日、午後6時30分から聖トマス大学サピエンチアタワー10階で第8回地域でつくる平和と共生フォーラムが開催されました。

1948年韓国の済州島で起こった「済州島4・3事件」の数少ない生存者である康実（カンシル）さん（犠牲者在日遺族会会長。現在尼崎市内東園田在住）をお招きして事件の真相をお聞きすることができました。

庚さんは、日本の植民地支配につづき、東西冷戦という「時代」に翻弄され、3万人が虐殺されるという悲惨な結果を招いた教訓として、「事件の根底には“貧困の暴力”があった」こと、「外国の支配を許してはならない国の主権だけは絶対に手離してはならない」ことを訴えておられました。

そして「済州島のこれからは、平和と人権の島になることだ」という教訓的な言葉で講演を締めくくられました。

済州島4・3事件を語る



次回の平和と共生フォーラムは

7月24日（木）午後6時30分
テーマ 「猪名川の水利の歴史
と園田の農業を語る」
講師 畑喜一郎さん
（自然と文化の森協会前会長）

新スタッフ紹介

皆様、はじめまして！昨年11月より「NPO 愛逢」で働かせていただいています、福原 由美と申します。今年4月1日からは『サービス提供責任者』として正式にスタッフの一員となりました。只今、中田さんや他のスタッフの皆様にご指導いただきながら業務を覚え、こなすのに奮闘中の毎日を送っています。まだまだ未熟者ですが、皆様！今後とも末永くよろしくお願ひいたします。



ミッション(社会的使命)

私たちは多様な生き方が尊重され、
誰もが安心して暮らせる地域を作る為に、
仲間と支えあい(愛)、つなぎあ(逢)っていきます。

寄付金をいただきました

(敬称略)

南方香代子、秋山義治、當間克雄、藤井小夜、橋平浩子、香川末子、小西香保留、
富松英二、安西喜代子、岩下寛、古堅宗太、長谷川達雄、中村大蔵、米田昌子、
松四喜代子、河合くに、福静

(期間：3月1日～5月23日)

の方々に当会の趣旨にご賛同頂き、ご協力頂きましたことを厚くお礼申し上げます。

—インド紀行 (その2) —

中国と並び、インドは依然として巨大な発展途上国である。地方でよく見る光景、特に車事情、交通事情について今回紹介。写真はジープとリキシャ (タクシー相当)。外に乗っている。合計何人乗っているか分からない。これがインドでは普通。日本の常識の3倍くらいは乗っていると思って良い。道交法がこの国には無いのか。走り方にも特徴がある。飛ばす車はすべてセンターを走る。センターラインがないせいもあるが、衝突する直前にお互いが左側に一瞬よける。だから衝突しない。これ、初体験ではビックリする。左側通行だけが道交法で決まっているのか。



< t o m y > (続く)

—おとなの川柳— 3

世間は暗いニュースばかりですので、せめてこのコーナーで皆様の憂さを晴らして下さいよ。"バカな川柳を書いているな"と笑ってもらえたら、こちらも儲けものです。
「負けてたまるか! 川柳はわが愛人なり!」

そこで一句 『入学式 ホントの主演は 保護者かも』…母親の超ミニスカート…

もう一句 『鯉のぼり よく見りゃ親父の 洗濯物』…せめて娘の下着にしてよ…

もう一句 『職場にも 必ずいるよ エリカ様』…別にいいんじゃないですか…

おまけに一句『助け合い 私の職場は なぐり合い』…ノーコメント <松ちゃん>

—ホット待^{タイム}夢—



ミャンマーの大水害、中国四川省の大地震など地球の内外からの大氾濫に地球はどうなるのでしょうか心配です。悠久の昔、地球が誕生したプロセスがあったのだから終わりもあるのでは?・・・と。

それにしても未曾有の天災には驚くと共に私たちが経験した阪神淡路大震災を思い出します。私も支援活動に参加しましたが、沢山のボランティアが生まれ「ボランティア元年」と言われました。ミャンマー、中国で被災された方々も多くの支援を受け入れながら一日も早く復興なさいますことを心より祈っています。

<淑女>